

カリフッド、ニシン残さい肥料に

育成作物を子ども食堂へ無償提供

カズノコ・ニシン加工のカリフッド（東京都大田区、井出敏也社長）はニシン由来の有機肥料を北海道共和町の農業生産者に支給し、その有機肥料で育てた米や青果を同社が全量買い取り、大田区の子ども食堂に無償提供する取り組みを始める。初年度の今年はトウモロコシなど作物の収穫を8月上旬から予定。同社が力を入れる国連の持続可能な開発目標（SDG S）達成に向けた事業の一環で、水産加工業者の同社と農業生産者との異業種連携による地域活性化や、児童らへの食事提供を担う子ども食堂の運営支援などを目指す。

同社は北海道岩内町に「や道産などの抱卵ニシン」の1次処理、カズノコや岩内工場を構え、ロシアのニシン製品加工、パッキングなどを手掛ける。このほど同工場開設10周年を迎え、対米HACCP認証取得を視野に入れたリニューアル工事を終えた。

同社はニシンがかつて肥料として日本の農業の生産性向上に貢献した点などに着目し、このほどニシン加工で発生した残さいや内臓などを原料に、道内の魚粉メーカーに委託して魚粉の製造を始めた。その魚粉を同町に隣接する共和町で有機農業を行う生産者4軒に支給し、有機肥料として作物の栽培に活用してもらう。

有機肥料のニシン魚粉

具体的には4軒の生産者はブランド米「ななつ

ぼし」やトウモロコシ、赤肉系メロン、ジャガイモなどをこの有機肥料で育てる。ななつぼしの収穫時期は9月下旬～10月上旬で、収穫量計画は1・8～2・4ト。トウモロコシとメロンはいずれも8月上旬に各100～200本、100玉、ジャガイモは9月中旬に50キの収穫を予定する。

有機農作物を全量買い取り

これら作物は同社が全量買い取る。さらに新しい肥料を使うため、不作などの問題が生じた場合は同社が各生産者の所得を補償するという。同社は買い取った作物を同区を中心に子ども食堂約30軒に無償提供する計画。子ども食堂の運営支援に加え、「カズノコの親のニシンが肥料になっていることや、岩内、共和町といった一般の人にはなじみのない地域と大消費地とのつながり創出を図る。同時に原料の

北海道共和町の農業生産者がニシン由来の有機肥料で作物を育てる



多くを海外に依存している日本の肥料の自給率向上の一助となることを目指す」（井出社長）。

従来の化成肥料は主に輸入原料を使うため価格が上昇しており、さらには共和町で有機栽培に取り組む農業生産者は若手が多く、有機肥料の調達に苦慮していることも同社の同取り組み着手の背景にあるという。同社は将来的にこの有機肥料で育てる作物の種類、収穫量を増やす他、道内の漁業者の周辺にある有機肥料原料（カキやホタテ殻など）の肥料化を通じて、海と田畑を結び付ける活動を拡大したいと意欲をみせる。